

人文学会学生部会参加のすすめ

人文学会学生部会の母体である「人文学会」は、1952年に人文学を中心とした教授陣による独自の研究活動の展開を目指して「近代思想研究会」として設立されました。1954年、同研究会の活動が拡充し、一般教養科目関連の教授陣による新たな学会として「人文学会」が発足し、同研究会は解散しました。1957年には、学生とのつながりを緊密にするために同学内に「学生研究会」を組織しました。1960年に「学生部会」へと名称が変わり、1961年に機関誌「世代」創刊、そして2002年に人文学会学生部会は創立45周年を迎えました。また、2005年からは機関誌「世代」の後継誌として『PLUS』の発行や神奈川大学国際交流、イベント開催など、学内の学風向上を目的とした活動を行っています。

私が人文学会学生部会の活動に参加したのは2年生の後期からです。それまでは、大学で語学や経済学、国際関係などを学びたいと考えていた為、入学当初は国際センターで約1ヶ月間、短期留学生とバディを組み、日本語文化の講義や横浜・東京観光、親睦旅行を行う日本語日本文化プログラムに参加しました。大学入学前は、海外と言えば欧米としか考えていなかったのに、東南アジアから来た留学生と交流することでその文化や言葉の魅力を知ることが出来、英語力向上

の後押しにもなりました。

その後は、3ヶ月から10ヶ月の長期にわたって日本に滞在して学習する留学生を受け入れるため、区役所や銀行口座開設など日本での生活に必要な手続きから、授業の組み立て、学校生活全般などをサポートするチューター制度に参加しました。上記のプログラムとともに、留学生が安心して学業に集中できるように留学生の立場になってサポートすることを心がけてきました。学内だけでなく、プライベートでもカラオケや博物館、花火大会に行くなど、友人として一緒の時間を過ごすことで留学生との間に深い信頼関係が生まれました。

国際センターでこのような活動に参加していたところ、外国語学部先生の紹介で人文学会学生部会の活動に参加させていただくようになりました。私が人文学会で携わった活動の中には留学生とのSDGs勉強会や英語での狂言教室など様々でしたが、中でも印象に残ったことは留学生との料理教室です。留学生と神奈川大学の学生が交流する機会を作ること、日本人学生は語学を学び異文化を理解することの大切さを知ることが出来、また留学生には日本の良さを知ってもらうことが出来ます。学生の中には、短期留学で日本に來日した後、交換派遣留学やワーキングホリデー、

経済学部 現代ビジネス学科 4年 能島 正和

ビジネスなどで再び日本にやってくる学生も多くいました。このような学生に会う度に、交流イベントの開催や留学生生活をサポートすることのやり甲斐を感じます。

留学生を招いた50人から60人規模のイベントを開催するには、限られた時間の中、英語でのイベントボスターや予告メールの作成、リハーサルなど事前の準備で大変な面もありますが、学生部会の人々で仕事を分担することで学業と両立することが出来ます。神奈川大学では38カ国、142校と活発な学術交流を行っており、前期と後期合わせて90人前後の交換派遣留学生を受け入れています。また、4月に入学する私費留学生も多く、人文学会学生部会の活動に参加し、積極的に留学生と交流することで、世界中に友達を作ることが出来、留学したいという思いも高まります。また、日本人同士も学部を超えて仲良くなれることが出来るので、異文化交流や留学、外国語に興味のある人はぜひ人文学会学生部会への参加を考えてみてください。

最後になりますが、このようなイベントを開催する機会を与えて頂いた人文学会学生部会の皆様をはじめ、関係者の皆様に、この場をお借りして深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



2018年度・第1回留学生と作る料理教室



2019年度・第6回留学生と作る料理教室